道徳学習指導案

指導者　島本　佳代子

1　日　　時　　平成 24 年 11 月 1 日（木）

2　学　　年　　第１学年２組　20 名　　［１年２組教室］

3　主　題　名　　ともだちをおもう こころ ［２－（３）　友情・助け合い］

4　資　料　名　　「二わのことり」　（出典「みんなのどうとく　１ねん」学研）

5　主題設定の理由

○　低学年の指導内容２－（３）は，「友達と仲よくし，助け合う。」と示されている。お互いに支えあえることが，友達関係には不可欠であると考える。良い人間関係を育てるためには，自分本位の考え方を少しでも改め，相互に信頼し合おうとしなければならない。そのためには，困っている友達を助けたり，友達のがんばりや成果をともに喜び合ったりする気持ちを育てていくことが大切である。

　この時期の児童は，まだ自己中心性が残り，友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しいことも多い。しかし，共に過ごす友達と仲良く活動し，困っている友達のことを心配し，助け，相手が喜ぶ様子を見て共に喜びを味わうような気持ちを育てたい。そして，友達のよさをより強く感じさせ，友達のために助け合っていこうとする心情を育てたいと考え，本主題を設定した。

○　本学級の児童は，学校生活にも慣れ，友達と遊んだり学習したりする中で，友達と過ごす楽しさや良さを味わって生活している。困っている友達がいるとすぐに気付き進んで優しく声をかけたりお世話したりしようとする。また，1 学期に本時と同価値項目である「こころはっぱ」（東京書籍）という資料を使って授業を行った。それは，さびしそうな様子で友達を欲しがるいのししくんを，木の上から見ていた動物たちが「友達になって」と声をかけると，はっぱの色が明るい色に変わり，みんなで仲良く遊ぶという内容である。声をかけてもらって動物たちと遊ぶいのしし君はどんな気持ちか考えた時，「友達っていいな。」「みんなでどんなことをして遊ぼうかな。」「声をかけてくれて，嬉しかったな。」等，友達ができる喜びや，やさしく声をかけられることの嬉しさを感じることができたようであった。その後，クラスの友達の中で，いいところやしてもらって嬉しかったところを見つけて，「こころのはっぱ」に書くという活動を普段の生活で取り入れていった。すると，「〇〇くん，いつも大きな声であいさつしているね。」「〇〇さん，おにごっこにさそってくれてありがとう。」等，友達と関わる中でたくさんのことに気付き，1 学期間に 100 枚以上の「こころのはっぱ」を書くことができた。しかし，自分と関わりの少ない人や自分がやりたいことが目の前にある時は，自分の楽しさを優先させたり友達の意見に左右されたりして手を差し伸べることができないこともある。また，自己中心的な行動から，些細なことでけんかになってしまうこともある。

○　本資料は，みそさざいがやまがらから誕生日の招待を受けながら，他の小鳥たちとうぐいすの家へいってしまう。しかし，さびしく待っているだろうやまがらのことを思い，うぐいすの家を抜け出してやまがらの家へ行くという内容である。やまがらの喜ぶ姿を見て，友達のために行動してよかったと喜ぶみそさざいの気持ちを考えさせながら，友達のために行動する喜びに気付かせることのできる資料であると考えた。

　指導にあたっては，場面の把握がしやすいように，資料は場面絵で提示する。また，挿絵の表情からもみそさざいの気持ちを考えることができるよう，黒板に発問をして貼っていく等して，

効果的に活用していく。状況を把握する基本発問として，「みそさざいが，うぐいすの家へ行こうか，やまがらの家へ行こうか迷ったのは，どんな気持ちがあったからでしょう。」と問う。ここでは，ハートものさしを用いて，うぐいすの家に行く気持ちを青，やまがらの家に行く気持ちをピンクにして自分の心の中にはどちらの気持ちがあるのかを示させる。どちらの気持ちもあること，どちらの気持ちが大きいかを視覚的に表す。中心発問を効果的にする基本発問として「みそさざいは，どんな気持ちがあったからうぐいすの家へ行ったのでしょう。」と問う。ここでは，迷いながらも他の小鳥と同じように明るい方，自分にとって都合のよい方に行ってしまったみそさざいの気持ちに共感させる。そして中心発問では「やまがらの嬉しそうな姿を見て，みそさざいはどんなことを思ったでしょうか。」と問う。ここでは児童一人ひとりがみそさざいの心情により深く寄り添えるよう，ワークシートを活用して，自分の考えを確かめさせる。「お手紙が来ていたのに，来なくてごめんね。」「うぐいすの家に行っていてごめんね。」等，思慮反省の価値の反応が出てくることが予想される。うぐいすの家かやまがらの家どちらかに行くことが正解というものではなく，一人ぼっちで寂しい思いをしているやまがらの思いに気付き行動したみそさざいの思いをしっかり考えさせていきたい。そのため，「うぐいすの家に行ったことは，悪いことなのかな。」と，切り返しの発問を用意しておき，やまがらの家へ向かっていった行為に着目させるようにする。また，「友達ってどんな人だろう。」と補助発問をし，全体での話合いを深め，ねらいとする価値に迫っていきたい。展開後段では，友達にやさしくされたり，したりしてうれしかった経験について振り返らせる。終末では，クラスの子どもたちが友達と関わり合っている写真を提示しながら，「心のノート」の言葉を語ることで，価値を温め，温かい雰囲気をつくって余韻を味わわせたい。

6　準備物

場面絵　短冊　ハートものさし

7　ねらい

○　やまがらの喜ぶ顔を見たときのみそさざいの気持ちを考えることを通して，友達のために行動する喜びに気付き，友達同士仲良く助け合っていこうとする道徳的心情を育てる。

8　本時のポイント

資料の世界に浸らせるために，やまがらの家とうぐいすの家の場面絵を対照的に提示したり，みそさざいの表情を分かりやすくする掲示をしたりする。また，ハートものさしを用いて心の変容を視覚的に捉えさせる。

9　指導過程

段階	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1　誕生日について話し合う。	○誕生日の日は，どんな気持ちになりますか。 ・わくわくする。 ・楽しみだな。 ・みんなから「おめでとう。」って言ってもらって嬉しい。	○　誕生日はみんなからお祝いしてもらって楽しい日であることを確認し，ねらう価値への方向付けとする。
展開前段	2　資料「二わのことり」を聞き，話し合う。	○みそさざいが，うぐいすの家へ行こうか，やまがらの家へ行こうか迷ったのは，どんな気持ちがあったからでしょう。 ・うぐいすもやまがらもどちらも友達だか	○　登場人物を確認し，みそさざいの気持ちを考えていくことをおさえる。 ○　うぐいすの家へ行く，や

		ら。 ・どちらも楽しそうだから。 ・片方に行くと，もう片方がかわいそうだから。	まがらの家へ行くという２つの行為で迷っていることをおさえる。 ○　ハートものさしを用いて，どちらの気持ちもあること，どちらの気持ちが大きいかを視覚的に表す。
		○みそさざいは，どんな気持ちがあったからうぐいすの家へ行ったのでしょう。 ・やまがらの家は遠いから行きたくない。 ・うぐいすの家は近くてきれいだからいい。 ・みんながうぐいすの家へ行ったから。 ・みんなと一緒の方が楽しそうだから。 ・一人で行くのは嫌だ。	○　うぐいすの家とやまがらの家との対照的な雰囲気に気付かせる。 ○　迷いながらも他の小鳥と同じように明るい方，自分にとって都合のよい方に行ってしまったみそさざいの気持ちに共感させる。
		○どんな気持ちで，みそさざいは途中からそっと抜け出したのでしょう。 ・やっぱり，やまがらさんがかわいそうだ。 ・一人ぼっちでさみしいだろうな。 ・やまがらさん，待っていてね。 ・誕生日は，一緒にお祝いしようね。 ・友達だから，行かないといけない。	○　ほかの友達へ心配りをして，そっと抜け出したことにも気付かせる。
		◎やまがらの嬉しそうな姿を見て，みそさざいはどんなことを思ったでしょうか。 ・お手紙が来ていたのに，来なくてごめんね。 ・やまがらの家に来て，よかったな。 ・お誕生日おめでとう。今から誕生日会をしようね。 ・こんなに喜んでくれるなんて，自分も嬉しいな。 ・大切な友達だから，これからも仲良くしたいな。	○　ワークシートに記入後，ペアトークでお互いの考えを交流し，その後の話し合いにつなげていく。 ○　役割演技を取り入れ，やまがらの喜びやみそさざいの充実感に共感できるようにする。 ○「友達ってどんな人ですか。」と補助発問をし，ねらいに迫っていく。 ○　反省の価値に偏らないよう，寂しい思いをしているであろうやまがらに気付き行動したみそさざいの行動に着目させる。
展開後	３　今までの自分を振り返る。	○友達にやさしくしたり，されたりして嬉しかったことはありますか。 ・休憩時間に，おにごっこに誘ってくれた。	○　出にくい場合は，教師から事例を挙げたり，学校生活以外にも目を向けさせ

段		・こけた時に，保健室に連れて行ってくれた。	たりすることで，自らの行動をふり返ることができるようにする。
終末	4　教師の話を聞く。	○先生からのメッセージです。	○　「心のノート」の中の言葉と児童の写真をスライドにして語り，価値を温め余韻をもって終わる。